

佐伯鶴城新聞



第97号
編集所 立城校部
編集者 佐伯鶴城新聞部
編集責任者 佐伯鶴城新聞部
編集者 佐伯鶴城新聞部

目指せ甲子園 鶴城らしい戦いを

野球



一球に集中する

甲子園に出場するために大分大会で優勝することを目標としている野球部。甲斐さんは大会に向けて「5月の県選手権で優勝できて勢いがあるし、チームの士気も高まっていると思うので、細かい所を修正して万

全の状態が頑張っていた」と意気込みを述べる。現在の部活動での練習内容は、バッティング練習やロングテーパー練習、ノック練習、守備練習や実戦練習など様々なことを行っている。練習時間が限られているのでそれぞれが個人としてのテーマを持って練習している」と教えてくれた。今の野球部の長所を聞くと「試合の中で、常に考えて動くことができるようになったことだ」と話す。また、本番については「ミスも出ると思うが、前向きに明るいうもどを作って臨みたいと思っている。守備からリズムを作っている自分たちらしい野球をする」と鶴城らしい戦いを



暑い中、練習に励む

第100回全国高校野球選手権記念大会が今月18日から行われている。本校野球部は15日に日本文理大学付属高校との試合で対戦し、18日に佐伯南高校との試合で対戦し、それぞれ勝利を収めた。野球部主将の甲斐元貴さん(三十四)に大会(か)ける意気込みを聞いた。

「練習時間が限られているのでそれぞれが個人としてのテーマを持って練習している」と教えてくれた。今の野球部の長所を聞くと「試合の中で、常に考えて動くことができるようになったことだ」と話す。また、本番については「ミスも出ると思うが、前向きに明るいうもどを作って臨みたいと思っている。守備からリズムを作っている自分たちらしい野球をする」と鶴城らしい戦いを

最高の演奏を 皆の音を一つに

吹奏楽

第55回吹奏楽コンクールに出場する、吹奏楽部・部長松岡うららさん(三十二)に大切なと思うことを聞くと「皆で練習して一つの物

と同じ目標に向かうことだと思ふ」と話してくれた。また「夏は暑い中、近所迷惑にならないように窓を閉めて練習をしているし、色々な音をどれだけ一つにまとめることができるかということや演奏会に向けた準備や練習などが大変だった。しかし、1、2、3年生の絆が深く、学年を越えて仲が良いの吹奏楽部の良いところだと思ふ」と語り「練習中では部員全員の音を一つにして、聞いている人が笑顔になれる演奏を心がけてきた」と話した。またコンクールについて「金賞を取って、上位入賞することが目標」と話した。最後に「1、2、3年生は練習してきたことを出し切って、全員で奏でる鶴城の音と思いが届くように演奏したい。3年生は最後の年で、思い残しが無いように最高の演奏をしたい」と意気込みを話した。(安藤 かほ)



気持ちを一つにハーモニーを奏でる



真剣に音を合わせる

合縁奇縁 第14回

今回紹介するのは、保健体育を教えてくださいださっている井上顕式先生である。先生には、趣味など様々な質問に答えてもらった。

【誕生日】2月22日
【趣味】3年前始めたスノーボード。滑っている間は全ての事を忘れられる。

【憧れの人】スノーボード選手のコラス・ミン

【好きな食べ物】鳥や豚などの肉。
【嫌いな食べ物】アールスメークルが入っている物。

【学生時代の部活動】中学から大学までほぼ毎日していた体操

【憧れの人】スノーボード選手のコラス・ミン

【得意・不得意だった教科】数学と理科が得意で、英語と国語が苦手だったから。

【好きな言葉】鶴城高校書道部が書いた「無窮 百鍊不撓」

【先生になった理由】ずっと体操をしていたから。

【宝物】飼っている犬「エース」。

【先生になった理由】ずっと体操をしていたから。



犬の名前は「あ」漫画から

【宝物】飼っている犬「エース」。

【得意・不得意だった教科】数学と理科が得意で、英語と国語が苦手だったから。

【先生になった理由】ずっと体操をしていたから。



災害は恐ろしいもの。火災や水害などは一瞬にしてすべてを奪う。物はもちろんだが、思

い出や時には命をも容赦なく奪い去ってしまう。7月の初めに起こった西日本豪雨はたくさんの尊い命を奪った。私はテレビで幼い子供がなくなつたというニュースを見た。その時その子の母親は何度も我が子の名前を呼んでいた。その声をまだ忘れることができない。ある▼私も去年、九月に来た台風で床上浸水の被害に遭った。押し寄せてくる茶色く濁つた水を見て不安になつたが、明日になればいつものように学校に行き、友達と他愛のない話をするのだと思つていた。だが現実には茶色い泥が溜まつた道や、動かなくなった車、飲むことができない水など、今まで想像すらしたことのない非日常があった。家の一階部分の量はバラバラに重なり合い、下水などの水も混ざって流れてきたからか、嫌なにおいがしていた▼私は災害の怖さと身を守る方法を知ることではしたが、災害を止める方法はまだ知らない。だが、その災害についての知識を経験によつて身に付けることができた。災害を恐ろしいものとして認識するだけでなく、その災害が起こった時に何ができるか、どのような行動をすべきか知り、知識をいつでも活かせるように準備するという事が大切だと私は思う。